

北海道子ども会育成連合会 事務局長 木村 様

いつも大変お世話になっております。

江別市教育委員会生涯学習課青少年係の左川でございます。

このたび、ご連絡をいただいております標記の件につきまして、別添のとおりデータを送付いたします。

データだけだといまいち伝わりにくいかもしれませんので、当時の状況を合わせてご説明します。

(少し長くなる上、長文で読みにくい文章もあるかもしれませんがご容赦ください。)

こんがり王国の開催に際しては、昨年4月に青少年係に着任して引継ぎを受けてから、コロナ前の通常開催に戻すための必要材料をどのように組み立てていくか、という点で頭を悩ませておりました。

私は、青少年係の前に介護保険課で介護保険事業所のクラスター対応支援やクラスター対策本部業務を手伝ったりしていました。そのため、他部署よりも感染症と関わるが多く、業務の中でも保健所の使用しているクラスター対策のマニュアル的な資料を参考に進めるなど、ひとつおりの感染症の知識があったため、これを最大限生かして開催方法を企画しました。

令和3年度に開催したこんがり王国は、大前提となる会場にウイルスを持ち込まないための対策（健康観察表、会場のゾーニングの徹底）のほか、「陽性者のウイルスが体内から排出されるルート」と「発症時のウイルスの体内への侵入ルート」から、不織布マスク以外の禁止、炊事場の適宜消毒、一般キャンパーの使用する既設トイレを参加者は使用禁止として参加者専用の仮設トイレを設置し、参加者がトイレを使用する都度消毒（実際にはトイレ使用のタイミングを見ながらになりました）、基本的な手洗いうがいの徹底などを図ったところです。

令和3年度で開催の実績が積めたことから、次のステップとしてどのように宿泊に戻すか、を考えました。

私の中での結論としては、何かしらのエビデンスを示すしかない、と方向性を定め、感染症のリスクを何らかの形で数値化する、という手段に決めました。

その中で、現実的に一番合理的で分かりやすく実験ができる手段として、テント内のCO2濃度を測定する実験に決めて、令和3年度中からどのような形式で実験を行うかを企画・準備し、

年度明けにすぐ青少年サークルとそのOBOG団体である
活動協会さんの協力で実証実験ができるように進めました。

最初はどのような結果が出るか分からず、逆にテント泊の実施を
否定する結果になるかもしれないと非常に不安でしたが、
結果としては、期待どおりの計測ができ、別添の資料のとおりと
なりました。

庁内でこんがり王国をテント宿泊で実施することについては、
このパワポ資料の内部向け版にて、理事者（教育長）と
幹部職員（教育部長、教育部次長、課長）へエビデンスを示し
企画の実現に至りました。

やはり、リスクの数値化、可視化という点が大きく評価され、
ここまで結果が出されればテント宿泊をやらない理由がない、
対外的に批判を受けたとしても説明できる内容である、という
ことで、内部での検討もすんなりと宿泊プログラムに戻す
結論が出たところです。

長くなってしまいましたが、今年度このテント宿泊が実施された
ことで、地域のリーダー養成、子どもたちへの野外体験の機会の
提供という視点では、とても大きな成果が残せたと思っています。

この実験結果が何らかの形でどなたかの役に立てば幸いです。
特に隠し立てするものでもありませんので、どのようにお使い
いただいても構いませんので、ぜひご活用ください。

江別市教育委員会

教育部生涯学習課青少年係

係長 左 川 貴 久

TEL(011)381-1069 / FAX(011)382-3434
